

陸上自衛隊中央音楽隊

陸上自衛隊中央音楽隊は、1951年（昭和26年）6月、陸上自衛隊の前身である警察予備隊の音楽隊として発足し、以来72年にわたり日本を代表する吹奏楽団として歴史を積み重ねてきた。防衛大臣直轄の音楽隊である中央音楽隊は、国賓の歓迎行事での特別儀仗演奏を延べ100ヶ国、1,500回以上行い、これらの功績により2015年、「内閣総理大臣特別賞状」を受賞した。また、過去のオリソンピックや天皇陛下御即位に伴う祝賀御列の儀など、国家的な行事にも数多く参加し、首都圏で開催される定期演奏会及び室内楽演奏会、全国各地へのコンサート・ツアーやオランダ街におけるコンサートのほか、自衛隊音楽まつり、陸海空自衛隊合同コンサート、ジャパン・バンド・クリニックへの出演、CD録音など多彩な演奏活動を行うとともに、全国の陸上自衛隊音楽隊員に対する教育も担当している。更に海外での活動として、韓国（2002年、04年、11年）、フィリピン（2014年）、英国スコットランド（2017年）、スパスカヤ国際軍楽祭（2019年）への参加や、米国陸軍軍楽隊・海兵隊音楽隊、ドイツ連邦軍参謀軍楽隊との共演、フランスでの室内楽演奏、ミッドウエスト・バンドクリニックへの出演などを行うとともに、2015年からはパプアニューギニア国防軍音楽隊の能力構築支援を行うなど、音楽を通じた国際交流に貢献している。



《指揮》 副隊長 2等陸佐 柴田 昌宣

大阪音楽大学卒業（トロンペット）、同大学専攻科修了（指揮）。2003年、陸上自衛隊に幹部候補生として入隊し中央音楽隊配属となる。2007年から第15音楽隊長（那覇）を務めた後、中央音楽隊を経て防衛省陸上幕僚監部広報室で陸上自衛隊の広報を担当。2017年から中部方面音楽隊長（伊丹）を務め、2023年3月から現職。この間、モーツァルデウム音楽大学マスタークラスにて指揮のディプロマを取得するとともに、東京藝術大学での研修や国際指揮者コンクールへの参加など国内外で研鑽を積む。また米国防総省（ペンタゴン）での海兵隊軍楽隊との合同演奏会やパプアニューギニア国防軍音楽隊の育成支援など防衛交流にも貢献し、CDの録音協力としても日本コロムビアやグリーンから多数のアルバムが発売されている。2021年からは故郷兵庫県加古川市の観光大使も務めている。これまでに、指揮を下野竜也、松尾昌美、夏田昌和、P.ギョルク、作曲法を川島素晴の各氏に師事。

《指揮》 3等陸佐 佐藤 文俊

神戸大学発達科学部卒業。2003年、北部方面音楽隊に打楽器奏者として入隊。2006年に幹部に任官後、中央音楽隊（朝霞）、中部方面音楽隊（伊丹）、2010年には第3音楽隊長（千代）を務めた。2014年、派遣履修生として東京藝術大学において研鑽を積む。その後、中央音楽隊運用訓練班長、防衛省陸上幕僚監部広報室での勤務、2019年3月北部方面音楽隊長（札幌）を経て、現在、中央音楽隊教育科長の職にある。その間、在米日本大使館での米海軍音楽隊との合同演奏会やパプアニューギニア国防軍音楽隊の育成支援など防衛交流にも貢献した。打楽器を、坂上弘志、北野徹、指揮法を斉田好男、辻井清幸の各氏に師事。兵庫県神戸市出身。



中央音楽隊、SNSやっています！ いいね、フォローお願いします！

